

大学入学共通テストに関する調査結果 (「簿記・会計」「情報関係基礎」の扱いについて)

【集計期間】 令和3年4月6日～4月16日

【回収校数】 856校 (98.9%) (国立：82校 公立：104校 私立：670校)

(※パーセント表記は全て回収校数を母数として計算)

1. 現行の数学②（「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「簿記・会計」「情報関係基礎」）のうち、「簿記・会計」「情報関係基礎」の受験を認めているか。

①認めている選抜区分がある	528校 (61.7%)
②どの選抜区分も認めていない	227校 (26.5%)
③どの選抜区分も数学②を課していない	101校 (11.8%)

2. 上記①のうち、令和3年度大学入学者選抜において、実際に「簿記・会計」又は「情報関係基礎」の成績を利用して合否判定を実施したか。

①利用した	209校 (24.4%) …A
②利用していない	319校 (37.3%) …B

3. 「簿記・会計」「情報関係基礎」が廃止された場合、各大学の令和7年度大学入学者選抜においてどのような対応が考えられるか。【1. ①を選択した大学のみ。複数選択可。】

	A+B	Aのみ	Bのみ
①総合型選抜において、簿記や情報関係の資格・検定試験の成績を積極的に評価	189校 (22.1%)	89校 (10.4%)	100校 (11.7%)
②総合型選抜において、専門高校等における学習の成果や諸活動の状況を積極的に評価	166校 (19.4%)	74校 (8.6%)	92校 (10.7%)
③学校推薦型選抜において、簿記や情報関係の資格・検定試験の成績を積極的に評価	186校 (21.7%)	88校 (10.3%)	98校 (11.4%)
④学校推薦型選抜において、専門高校等における学習の成果や諸活動の状況を積極的に評価	160校 (18.7%)	63校 (7.4%)	97校 (11.3%)
⑤専門高校等向け特別選抜枠を設定	53校 (6.2%)	26校 (3.0%)	27校 (3.2%)
⑥その他①～⑤以外の対応を行う	44校 (5.1%)	14校 (1.6%)	30校 (3.5%)
⑦上記①～⑥のいずれの対応も考えていない	224校 (26.2%)	70校 (8.2%)	152校 (17.8%)

4. 上記3で①～⑥を選択した理由及び可能な範囲で想定し得る具体的な選抜方法

- 専門学科・総合学科枠等の選抜を行っており、既にその中で簿記・情報関係の資格・検定試験の成績を積極的に評価しているため、共通テストにおける当該科目の廃止にかかわらず、継続した評価方法をとることを想定。
- 高等学校等での学習成果や諸活動の取り組みを、活動状況報告書（総合型選抜）や調査書（学校推薦型選抜）等により評価の対象とする。
- 日商、全商簿記、情報処理等の資格取得者に対し、点数加算を行う。

5. 上記3で⑦を選択した理由

- 大学教育において「数学Ⅱ・B」の素養が必要であるため。
- 「簿記・会計」「情報関係基礎」を活用して受験する者は、極めて少数であるため。
- 「簿記・会計」「情報関係基礎」を受験科目として利用できる専門高校以外の生徒の進学機会を鑑みるとむしろ平等になると考えられるため。